

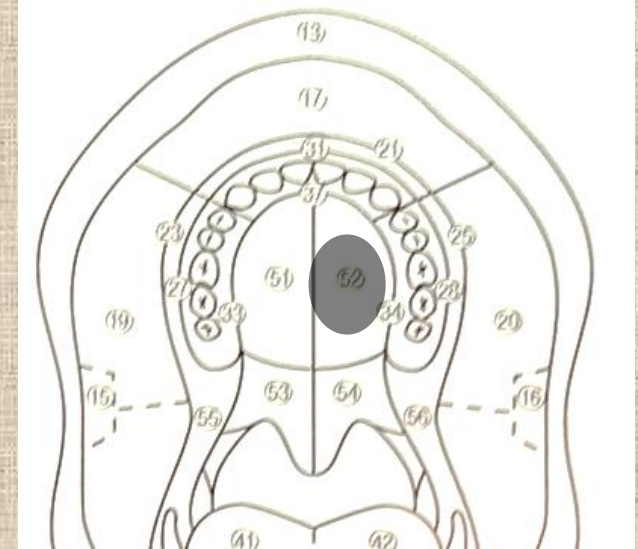
唾液腺症例検討会

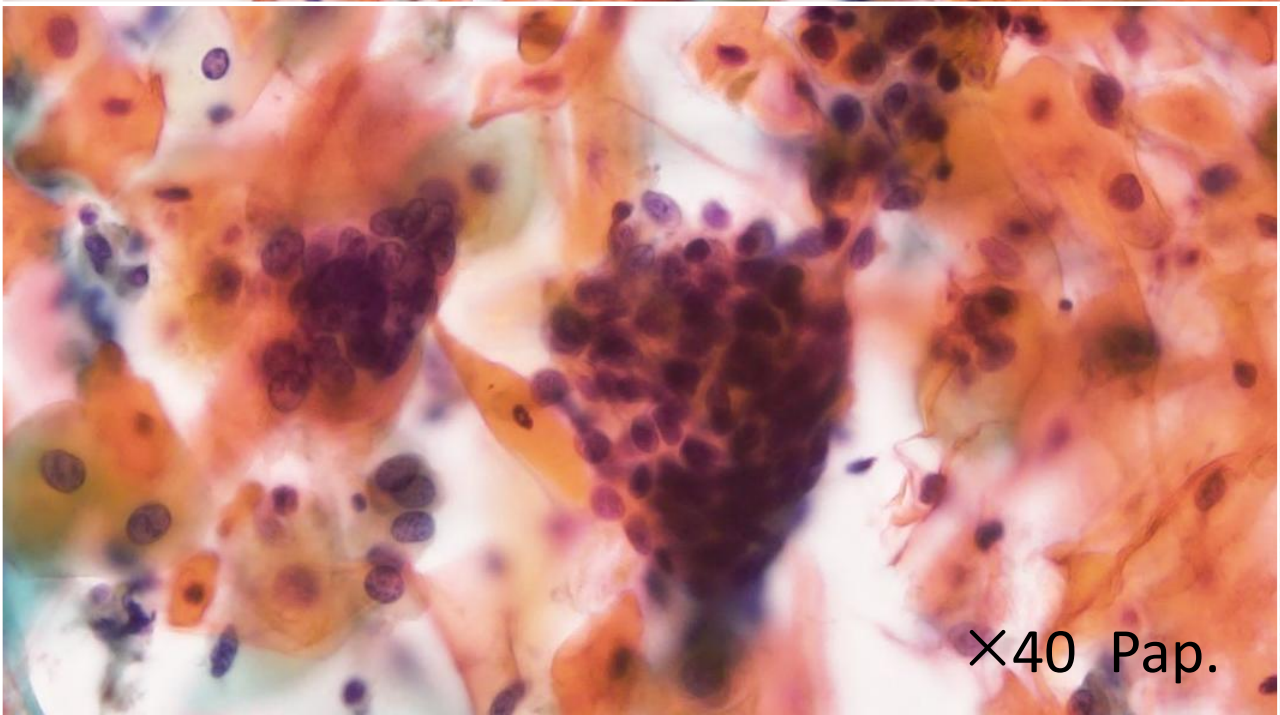
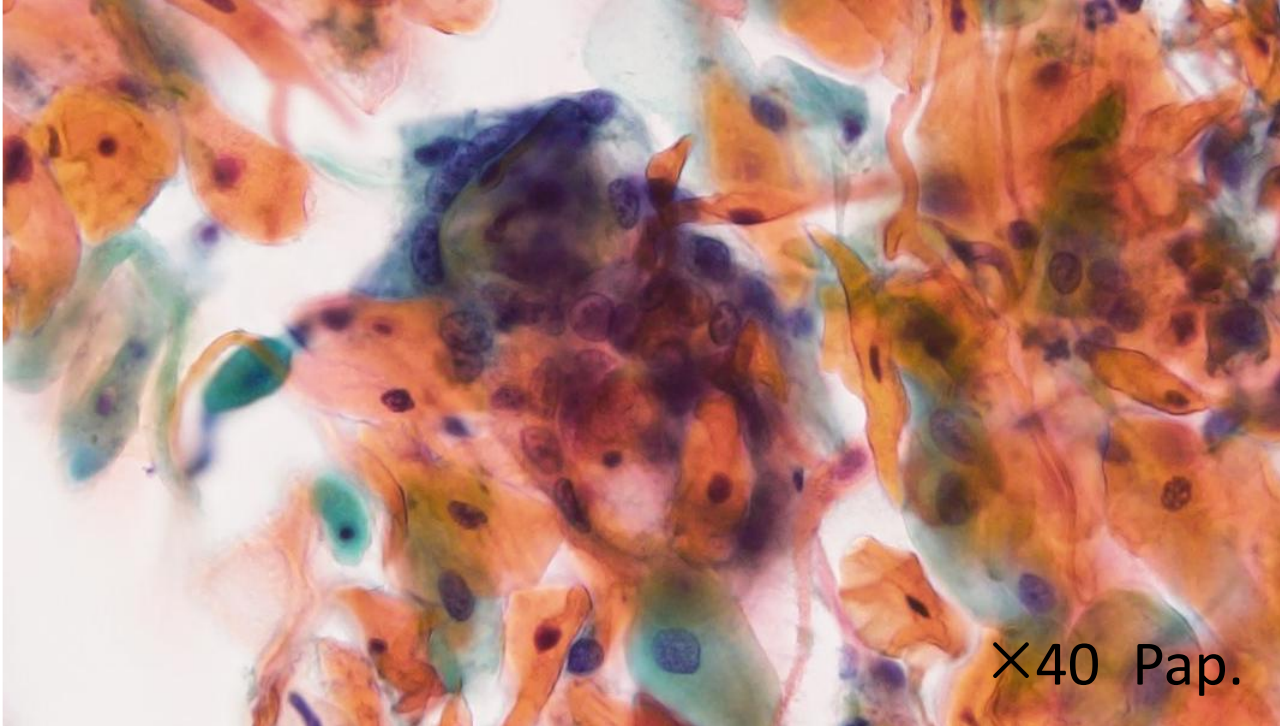
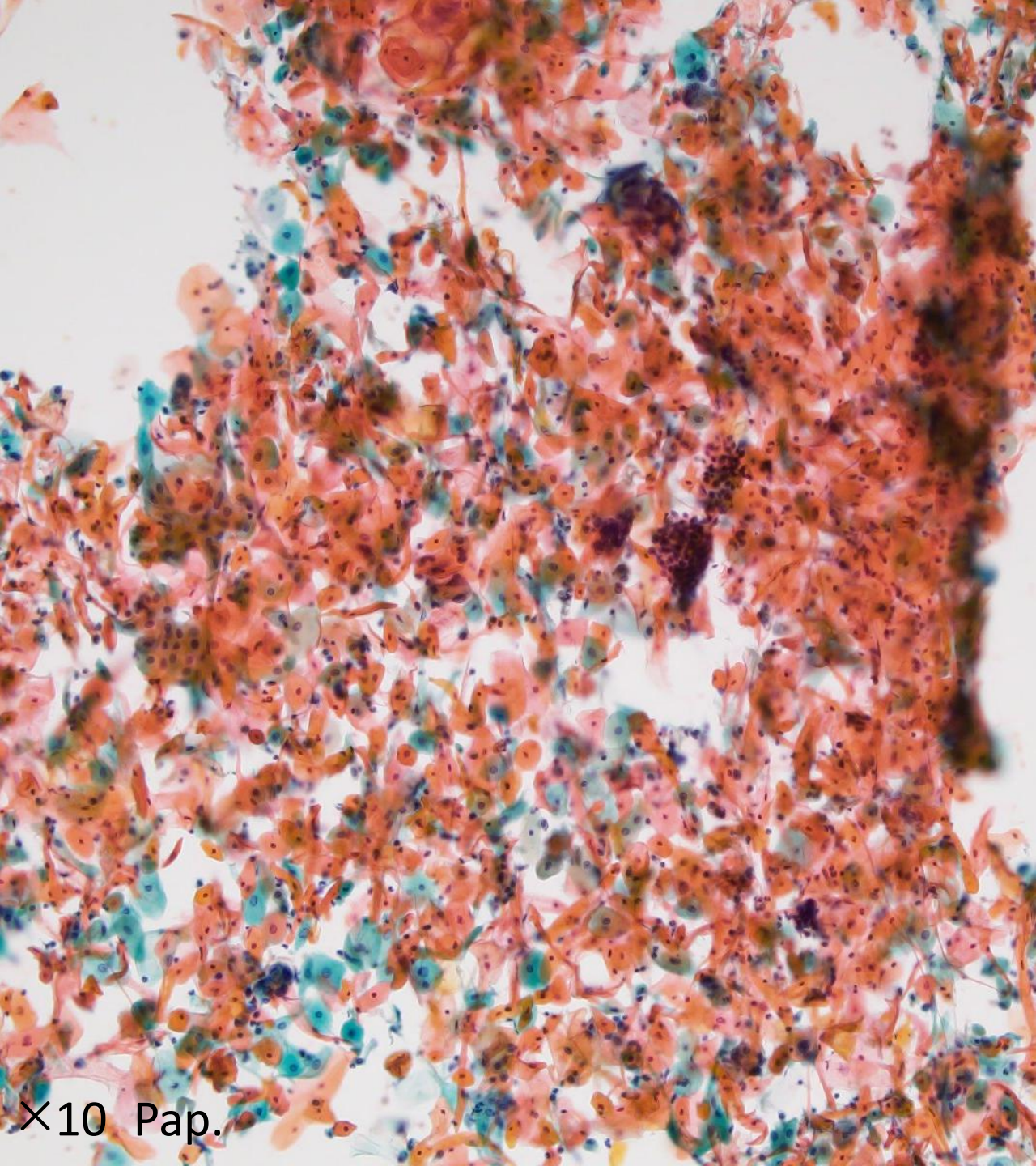
亀山 由歌子

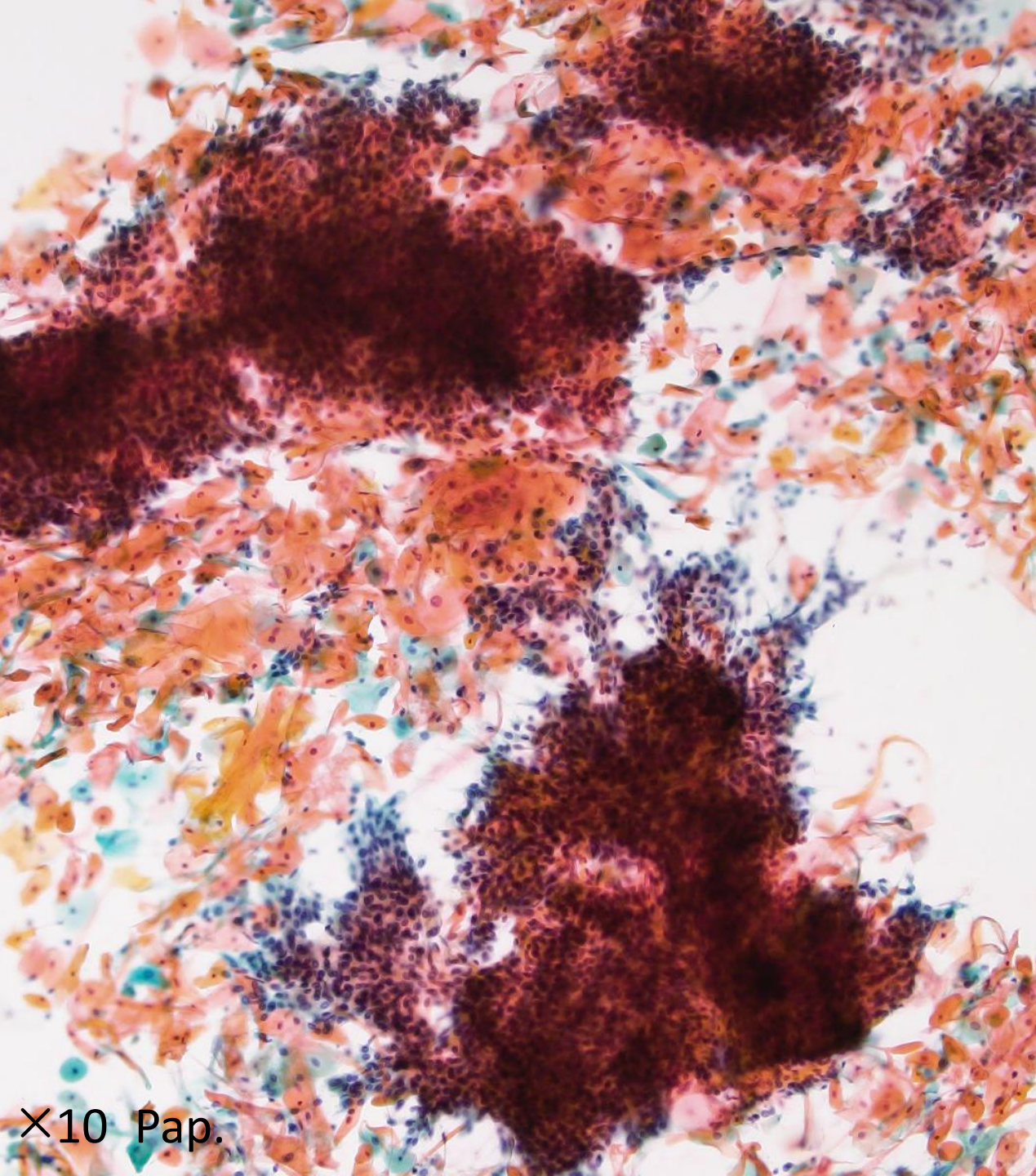
日本大学松戸歯学部病理学講座

症 例

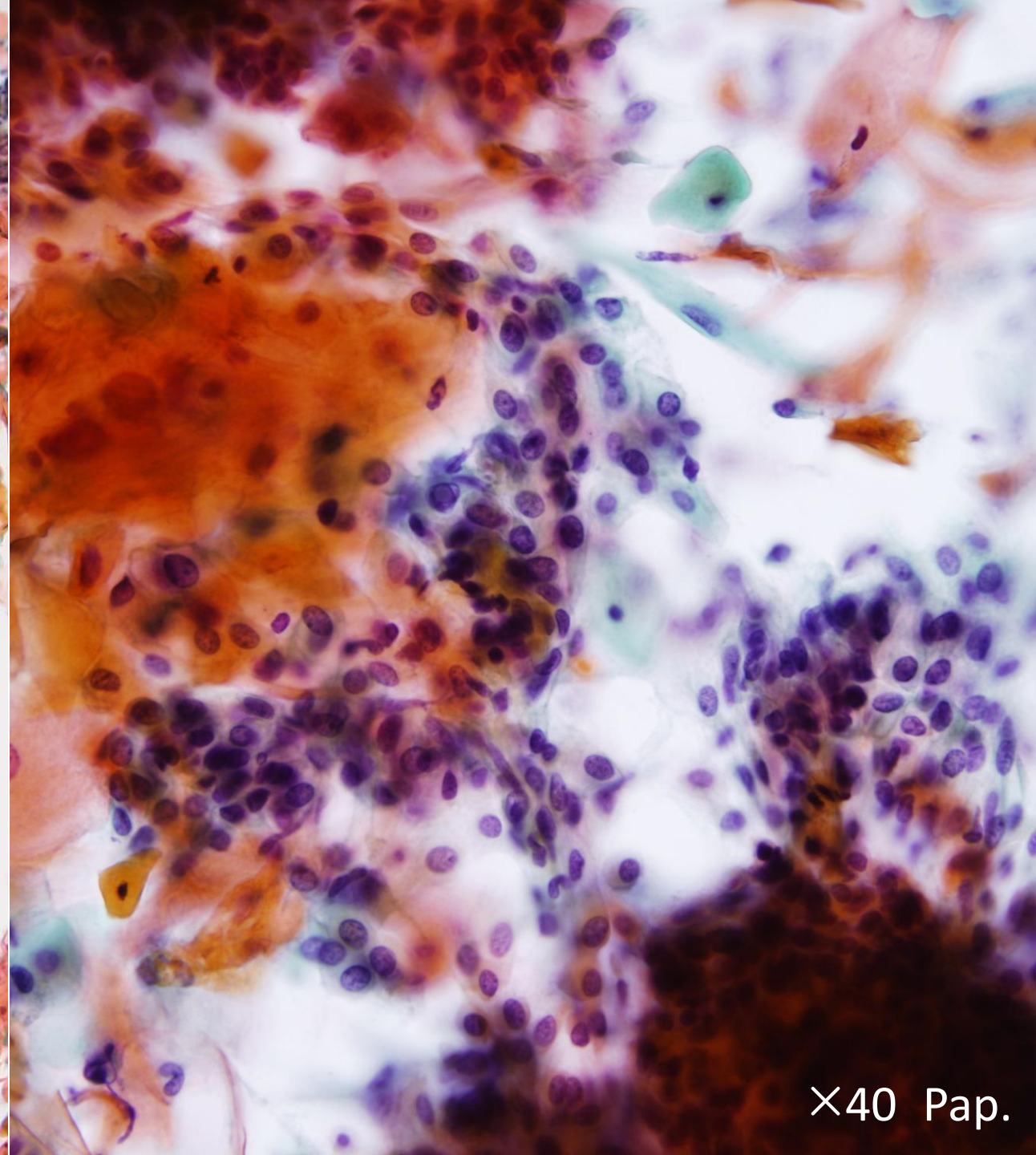
- 年 齢： 40歳代
- 性 別： 男性
- 採取部位：正中～やや左側寄りの硬口蓋
- 採取方法：摘出標本の捺印
- 既往歴： 痛風で通院中
- 現病歴： 1年前から上顎正中部の出来物に気がつく。他院受診し当科紹介された。腫瘤部は直径約3cmで境界明瞭、半球状、弾性硬、表面は粘膜で被覆されていた。



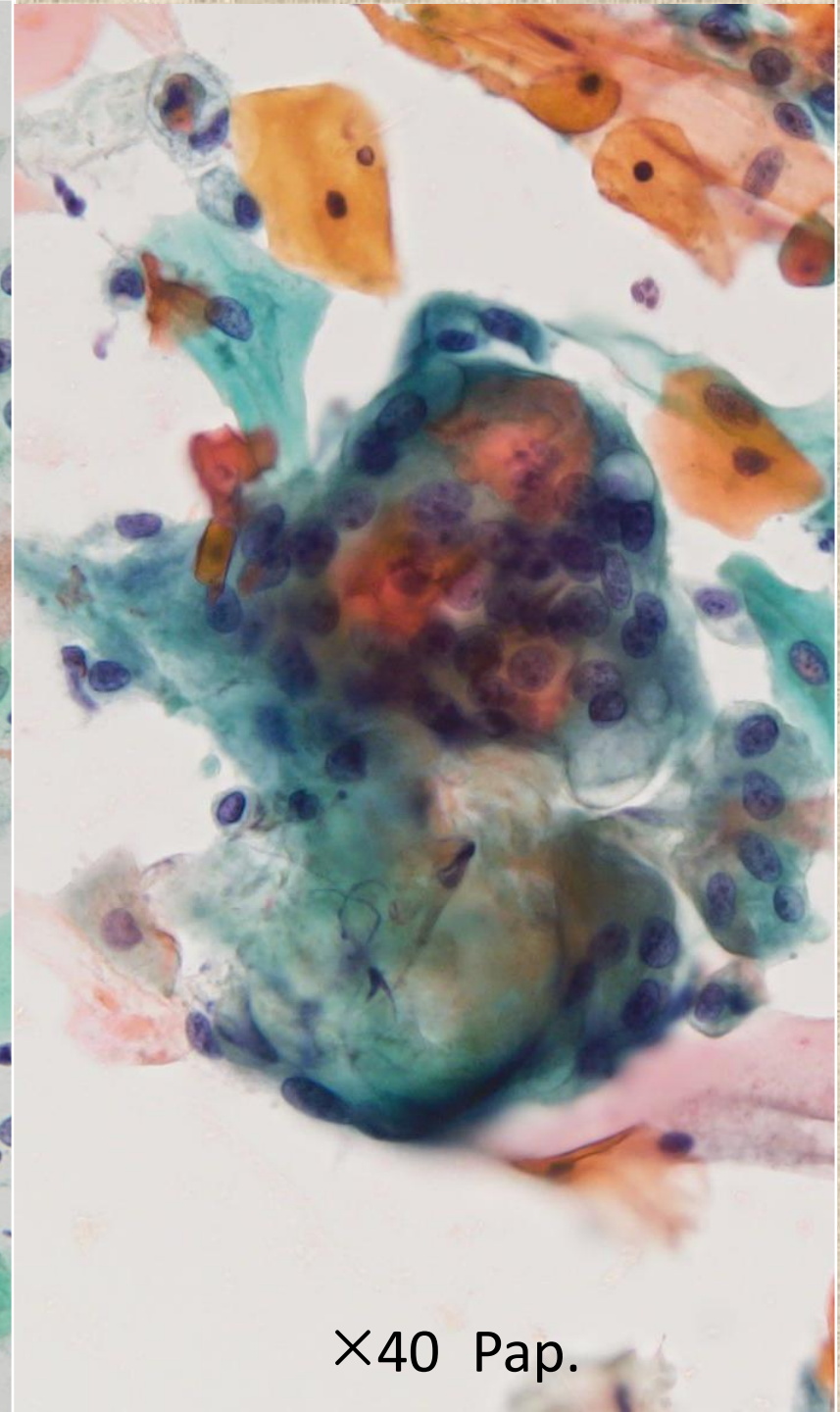
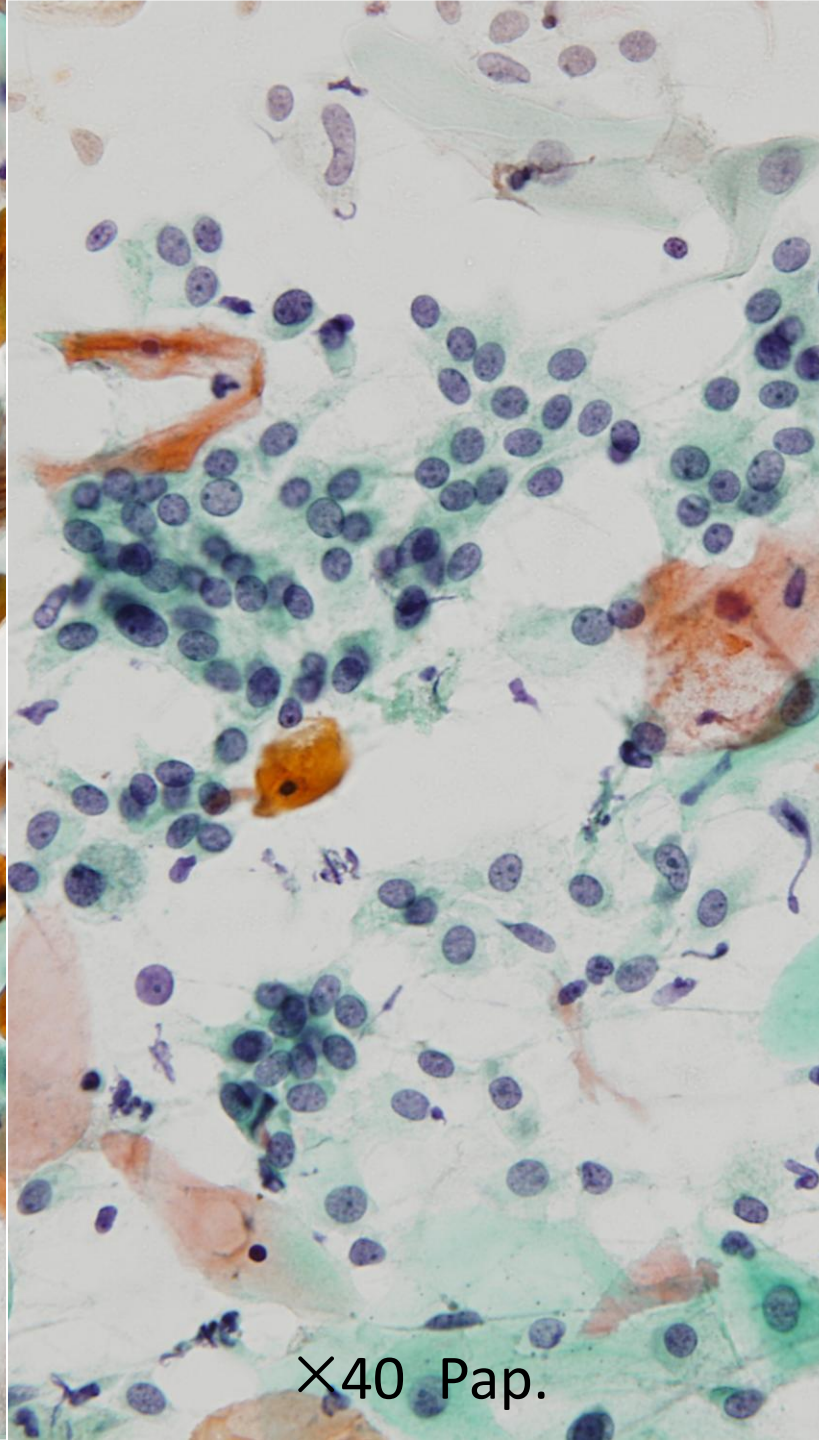
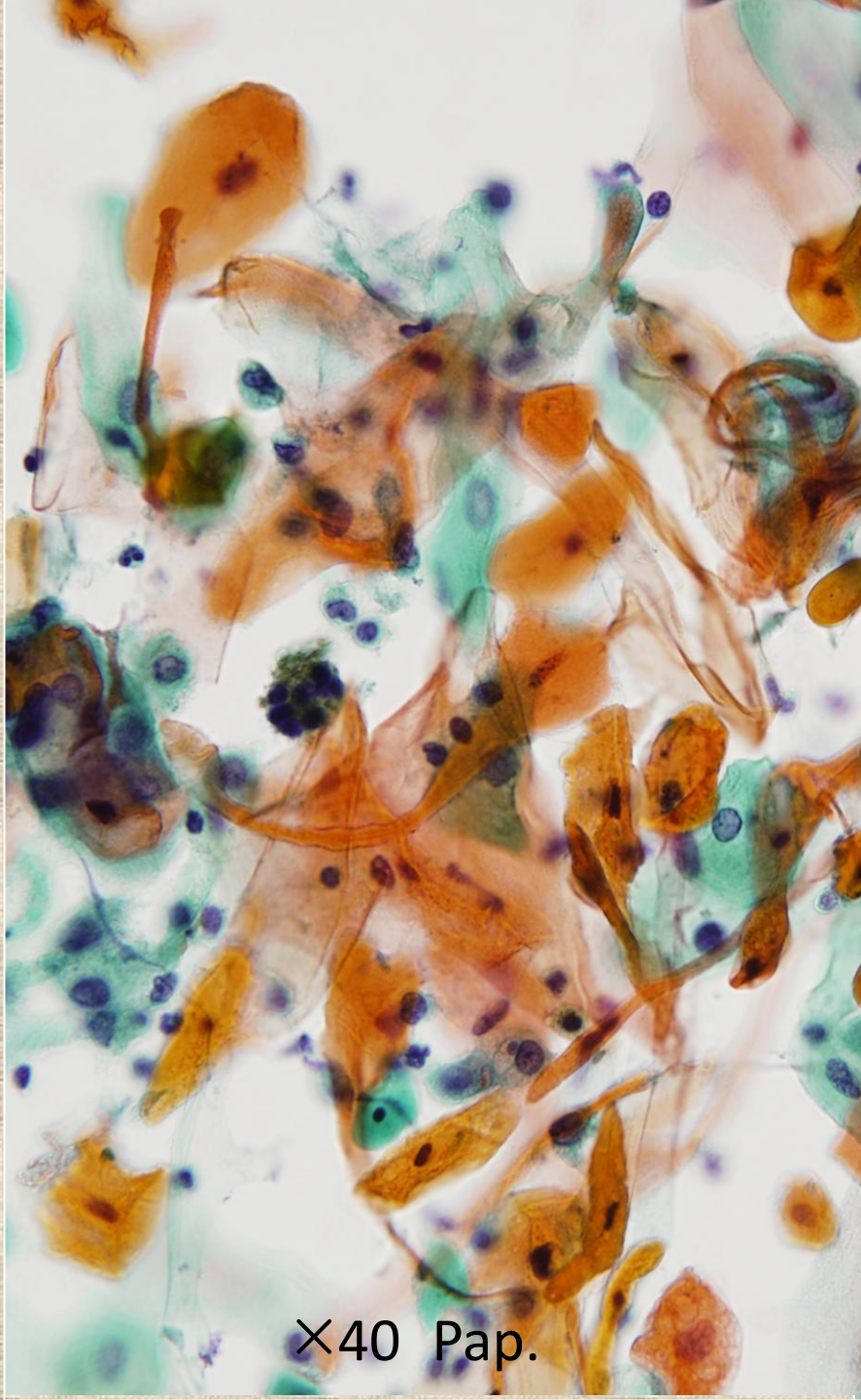




×10 Pap.



×40 Pap.



細胞診 判定

<ミラノシステム>

1. 不適正
2. 非腫瘍性
3. 意義不明な異型 (AUS)
4. 良性腫瘍
5. 良悪性不明な腫瘍 (SUMP)
6. 悪性疑い
7. 悪性：低悪性
8. 悪性：高悪性

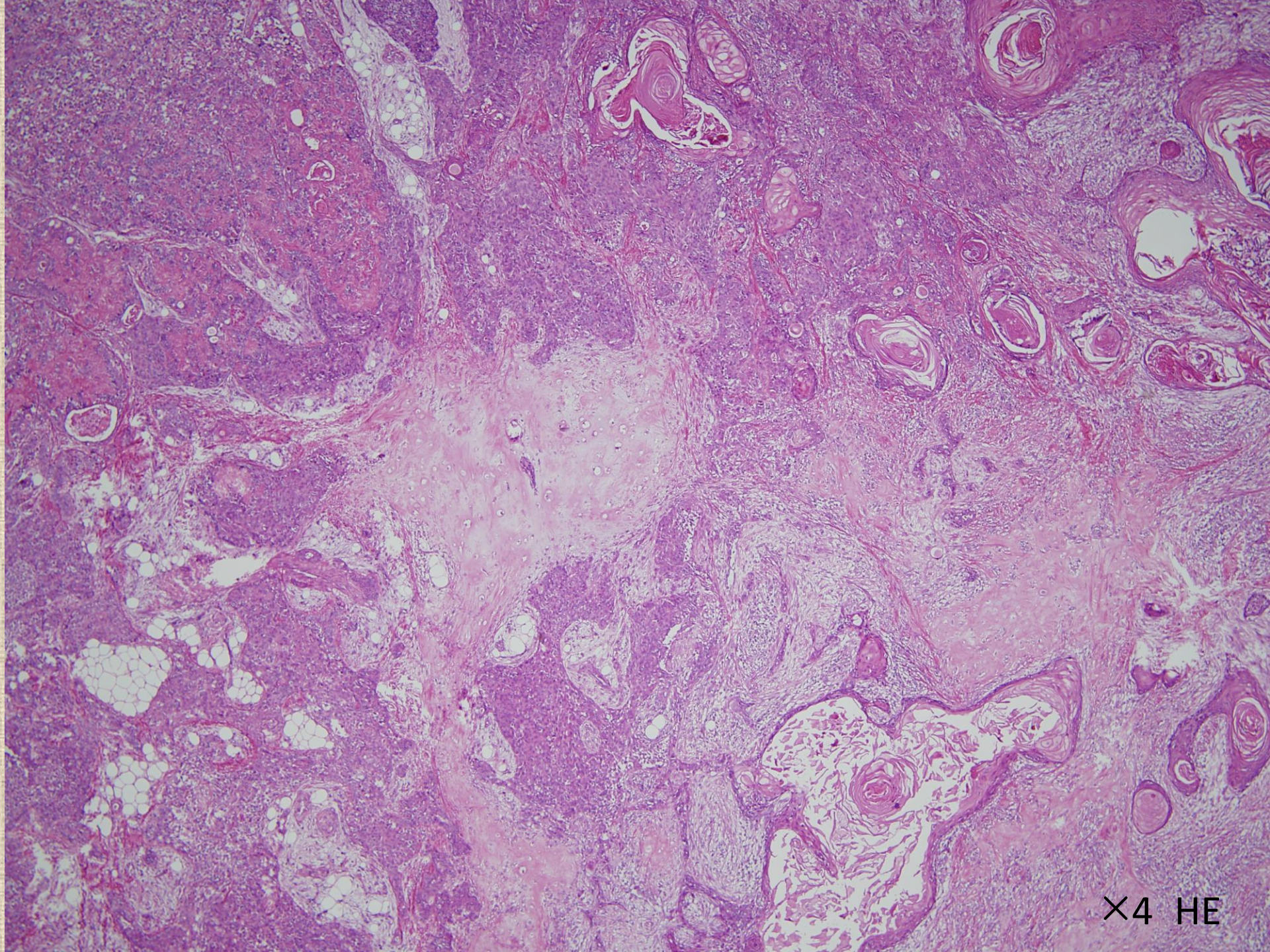
<推定病変>

多形腺腫 と
異型扁平上皮細胞

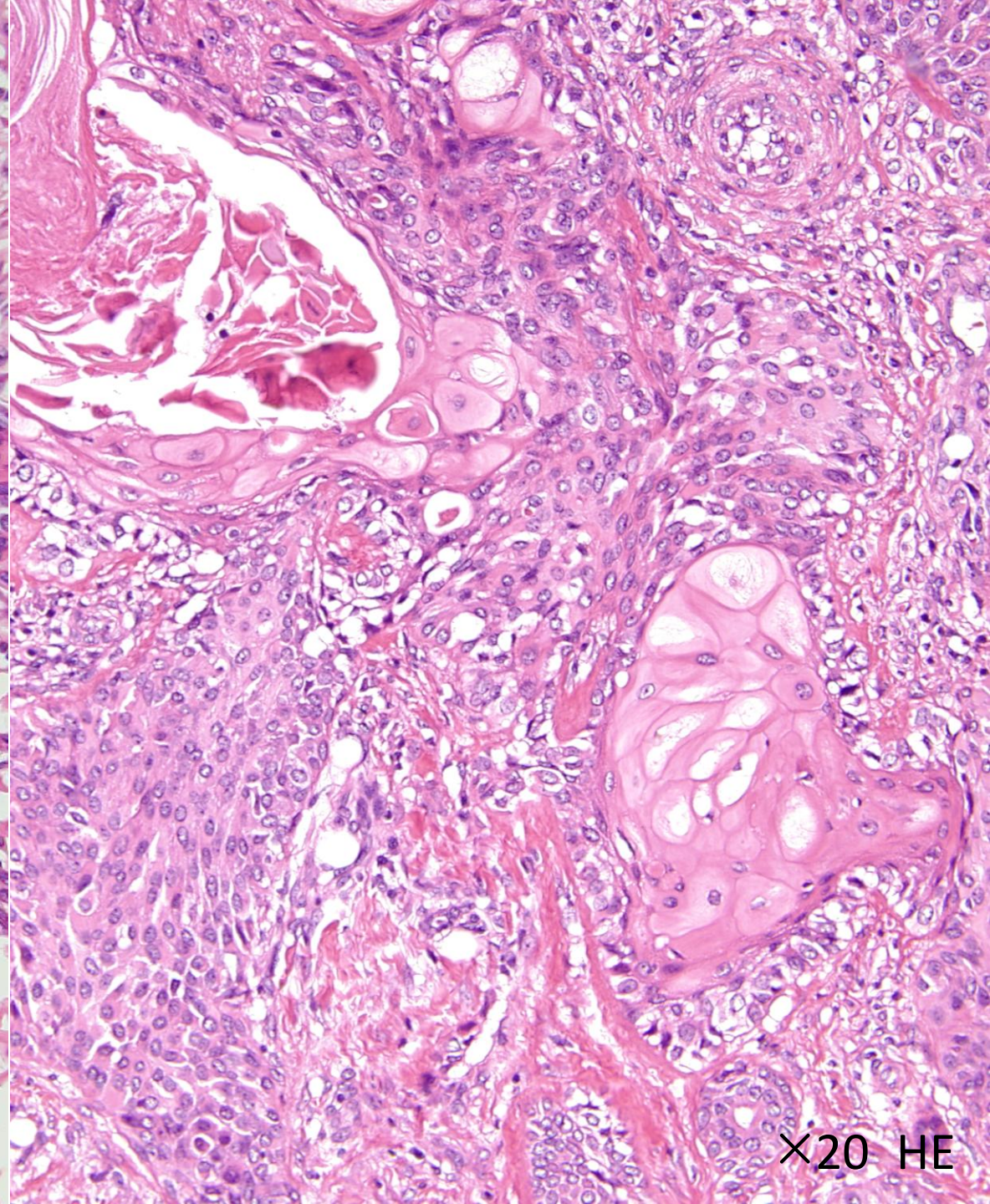
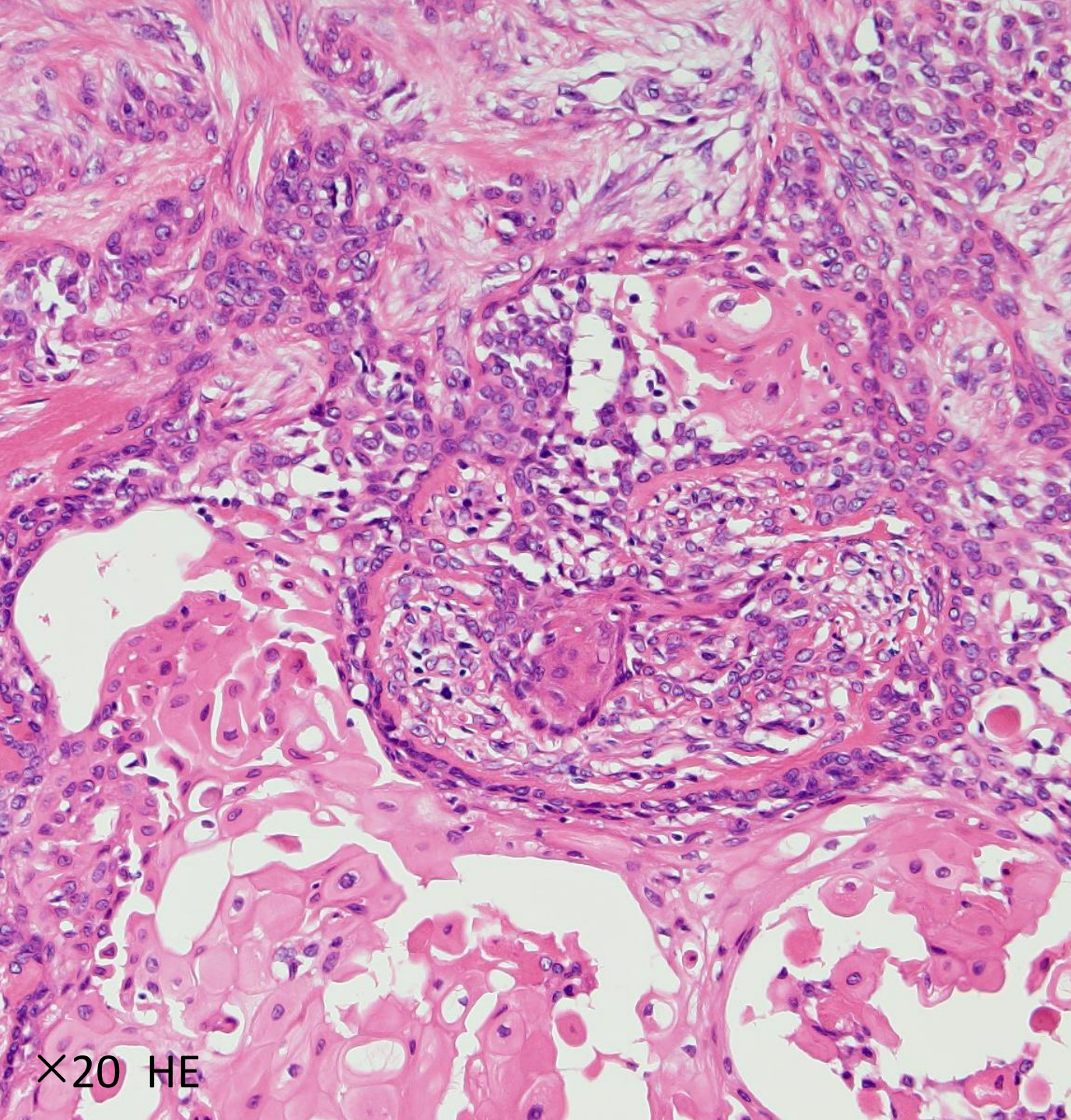
回答

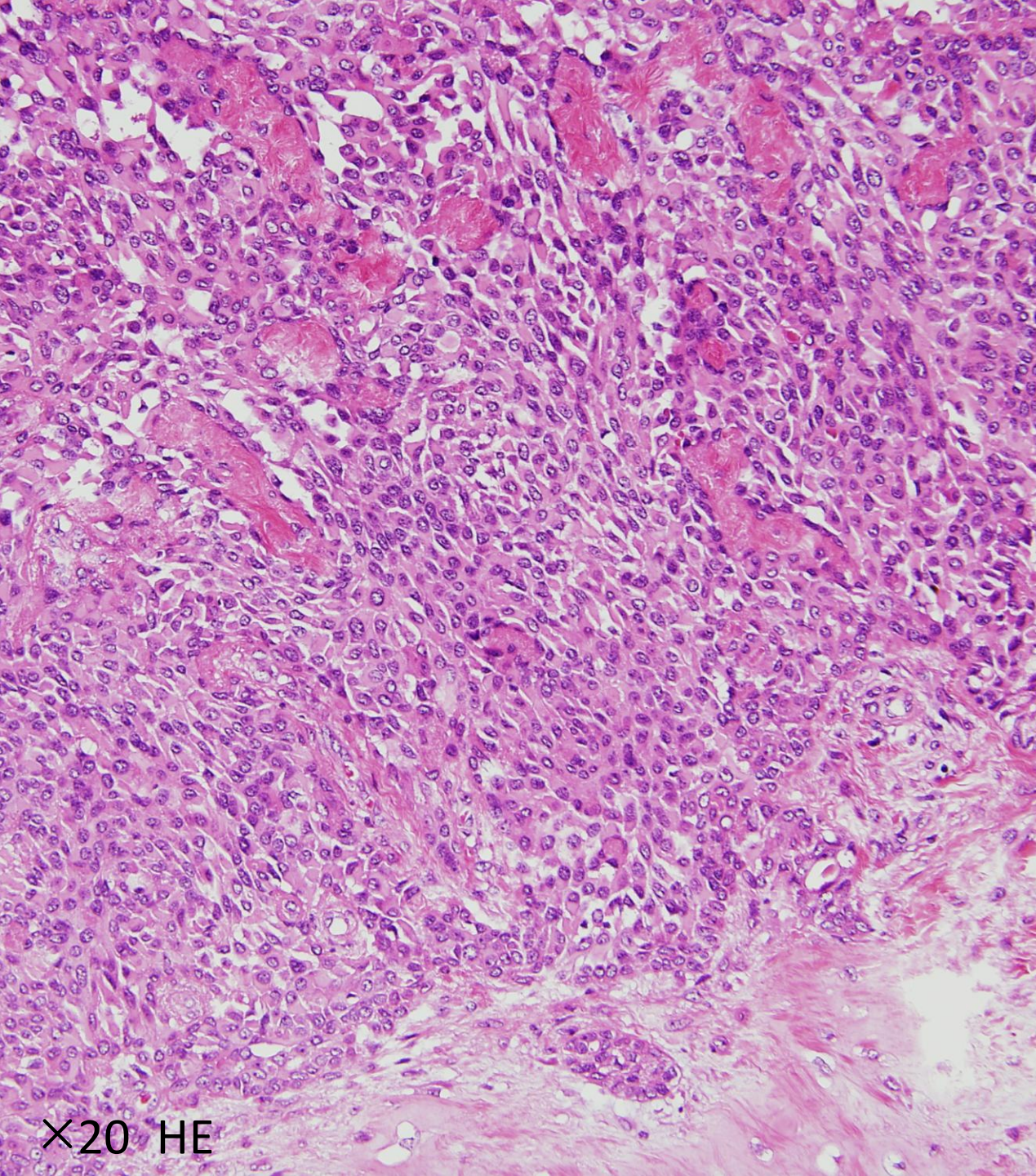


摘出した検体は、
 $2.6 \times 2.5 \times 1.5$ cm大
不整球形、
灰白色を呈する腫瘍

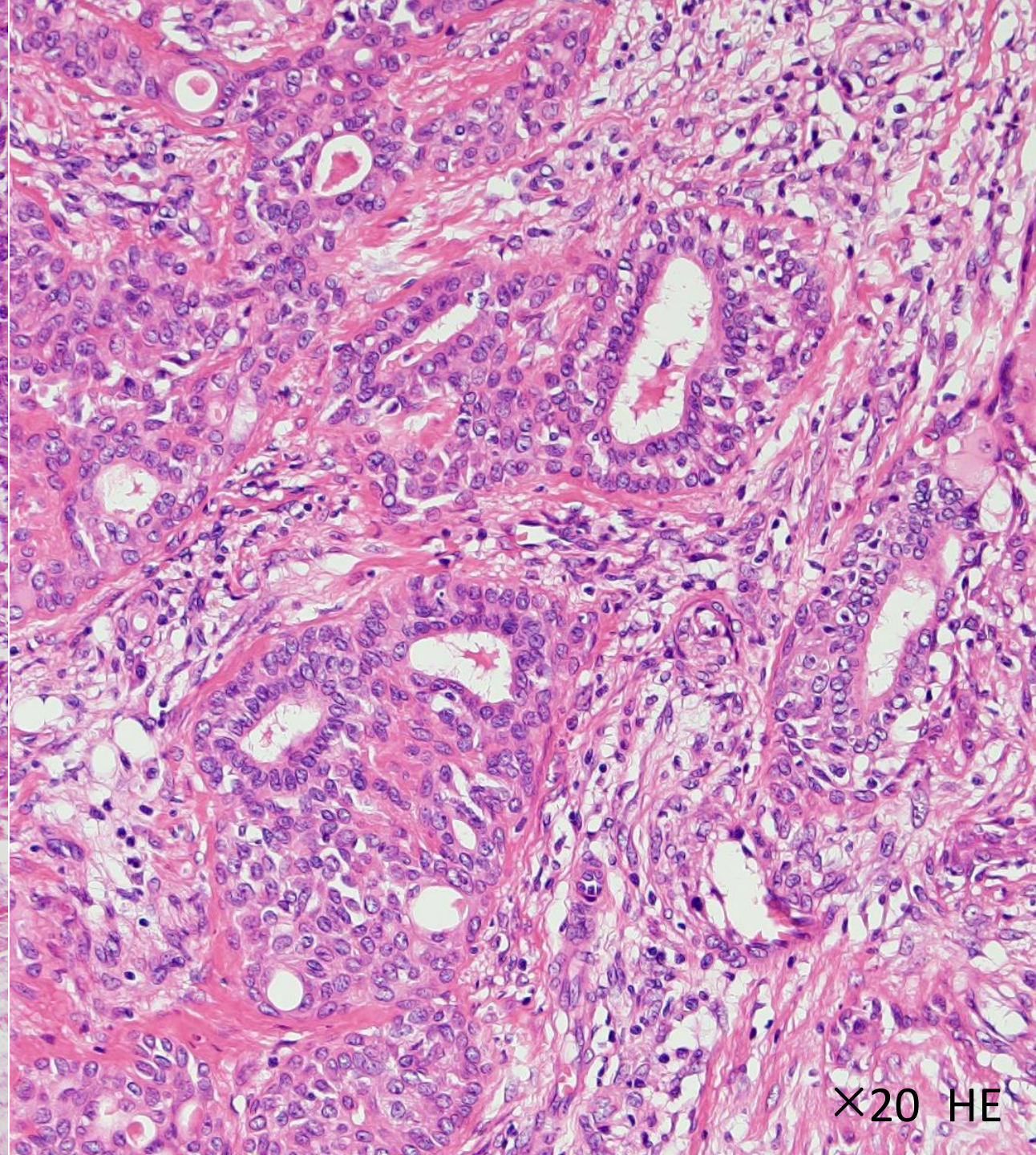


×4 HE





×20 HE



×20 HE

病理組織診断

扁平上皮化生を伴う多形腺腫

Pleomorphic adenoma with
Squamous metaplasia

「作者の許可無く改変・転載を禁じます」